

【佳作】

## 北方領土について

大樹町立大樹中学校

1年 島崎 海奈

北方領土は、私たちの国の領土であり、国際的なルールからも日本に属する領土です。しかし、第二次世界大戦の末期、日本が降伏の意思を表明した後、ソ連軍が北方領土に侵攻し、日本人を強制的に追い出し、現在まで法的根拠なく占領を続けています。

北方領土とは、北海道東北部の海に浮かぶ四つの島々からなる地域の総称です。四つの島とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島のことです。地図で見ると北海道の端にある小さな島という印象をうけるかもしれませんが、面積の総計は約五千平方メートルで、千葉県や福岡県とほぼ同じ面積で、広大な面積を有する地域です。

終戦時は、約一万七千人の日本人が生活していて、児童は約三千人就学していました。主な産業は漁業で、活気のある生活を送っていました。また、水産業を行うために移住する人がいるほど盛んでした。私が住んでいる大樹町と同じくサケやマス、毛ガニなどがとれ、周辺に暖流と寒流が流れこんでいるため、豊かな水産資源に恵まれており、昭和十四年から十六年までの平均水揚げ高は、北海道全体の約二十三パーセントを占めていました。

現在、ロシアが北方領土を占領しているため、ロシアの漁業範囲が広がってしまい、「豊かな水産資源」がロシアの物になってしまっています。北海道の豊富な資源が、法的根拠なく占領されていることにより、ロシアにうばわれてしまっています。ロシアが北方領土周辺で大量に漁かくして、大樹町に帰ってくるはずのサケやマスが減っているかもしれません。そのせいか、道東のサケやマスの漁かく量は年々減少しています。ロシアは、この豊富な資源を狙ったのも占領した一つの理由ではないかと私は考えました。

北方領土は、北海道、そして日本が不足している水産資源が豊富なので、日本に必要な領土です。歴史的にみても日本の領土であり、国際的なルールをみても日本に返さないといけない領土です。水産業が盛んな大樹町に住んでいる私たちだからこそ、一人でも多くの人が北方領土問題と向き合い、大切さを伝えて、解決してほしいと思っています。また、返還が遅くなったとしても北方領土が日本に帰ってくることを願っています。